

情報公開文書

研究課題名	本邦における卵巣癌（上皮性腫瘍）に対する妊孕性温存治療に関する実態調査
研究体制	<input type="checkbox"/> 長野赤十字病院が責任研究機関となる <input checked="" type="checkbox"/> 他施設が責任研究機関となる共同研究 （責任研究機関： 聖マリアンナ医科大学 ）
研究責任者	責任研究機関 所属 <u>聖マリアンナ医科大学産婦人科学</u> 氏名 <u>鈴木 直</u> 当 院 所属 <u>産婦人科</u> 氏名 <u>本藤 徹</u>
研究期間	（西暦）承認日より 2020 年 3 月 31 日まで
研究の概要	<p>（研究の意義・目的・方法）</p> <p>この研究は小児期及び通常成人女性の谷間の世代である思春期および若年成人世代である AYA 世代に着目し、AYA 世代における卵巣癌の治療前情報、治療方法、妊孕性温存方法、治療後妊娠転帰等について調査することを目的としたものであり、今後の診療にも役立つことができると考えています。この研究を行うことで患者さんに日常診療以外の余分な負担が生じることはありません。</p> <p>研究の方法は、卵巣癌（上皮性腫瘍）手術を受け妊孕性温存を目的とした治療を行った患者さんのカルテより、治療前情報、治療方法、妊孕性温存方法、治療後妊娠転帰等を中心とした情報を収集します。取得した研究対象者の情報を日本産婦人科学会腫瘍委員会「本邦における卵巣癌に対する妊孕性温存治療に関する実態調査」へ送付し、詳しい解析を行います。</p>
試料・情報	<p>（試料・情報の項目）</p> <p>手術時年齢、手術前結婚歴、手術前妊娠既往、手術前月経歴・月経異常、手術前挙児希望の有無、手術前 CA125 値、手術前の卵巣予備能検査施行の有無、初回手術実施日、手術方法、術後進行期、病理組織分類、術後化学療法の有無、治療後卵巣予備能、術後不妊期間、治療後結婚歴・月経歴・月経異常、治療後挙児希望、治療後の妊娠の有無、妊娠時合併症の有無、妊娠転帰、分娩形式、分娩週数、再発の有無、再発日、再発日治療、再発時の妊孕性温存治療の有無、最終生存確認日、最終生存確認時の転帰</p>
研究対象者	<p>2009 年 1 月～2013 年 12 月の間に手術が行われた AYA 世代（15～39 歳）の卵巣癌（上皮性腫瘍）に対し妊孕性温存を目的とした治療を施行された患者さん。</p> <p>※当研究に自分の情報を使用してほしくない場合は下記のお問い合わせ先までお申し出ください。</p>
個人情報の保護	<p>収集したデータは、誰のデータか分からなくした（匿名化といいます）上で、使用いたします。国が定めた倫理指針（「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」）に則って、個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。</p>

お問い合わせ先

〒380-8582

長野県長野市若里五丁目22番1号

長野赤十字病院

所属 産婦人科 氏名 本藤 徹

TEL : 026-226-4131 (代表)

FAX : 026-228-8439